

## (1) 学校経営の重点

目標 開かれた学校づくりを進め、学校課題について全校で組織的に取り組む。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取り組み内容（指標）			
①	【教育課程】新学習指導要領に基づき、新教育課程の編成を進める。 (教育課程委員会)	A	
②	【安全対策】警備・防災計画に基づき、年1回の防災研修・防災訓練を行い、学校内の危機管理体制が機能している。 (健康教育部)	A	
③	【校種間連携】年2回の小中教職員の各種協議会を実施し、小中連携を深める。また、中高連携も推進する (教務部)	B	A
④	【家庭・地域との連携】地域や保護者からの情報や要望について、しっかりと受け止め、日々の教育活動に反映できるように努めている。 (管理職)	A	

### 結果と分析

- ①学校経営方針を校内外に公表し、それに基づいて教育指導の計画や教育課程を作成した。
- ②避難訓練だけでなく、防災研修や防災訓練を去年から行い、生徒へのアンケートでは一定の成果を見た。防災意識の定着のため、これからも継続する必要がある。
- ③校下小学校で英語の授業を実施した。また、小中の教職員相互の授業参観を実施した。3学期には2校の高等学校の出前授業を実施した。
- ④保護者アンケートの結果、「阪南中学校の生徒は、全体的に落ち着いた学校生活を送っている」や「PTAと学校は、相互に協力し教育向上に努めようとしている」の項目で90%以上の保護者が『そう思う』『ある程度そう思う』と回答した。

\* Aが3項目、Bが1項目でAが多いため、学校経営の重点の目標達成状況は、総合的にAとする。

### 次年度への改善点

- ②防災訓練を引き続き行い、防災に関する知識を深め、万が一に備え敏速に行動できるよう、さらに意識を高め防災研修を強化する必要がある。
- ③小中連携をさらに進めるため、小中連携委員会のメンバーは年に1度以上は小学校の研究授業に参加する。

## (2) 学習指導の重点

目標 ・学習意欲を高め、やり通す強い意志力を育てる。

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した  
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取り組み内容 (指標)			
①	【個に応じた学習指導】生徒たちの、学力・学習意欲を向上させる教科指導のあり方や、教育内容の工夫改善に努める。(教務部)	A	
②	【今日的課題に ICT 機器を活用した授業を全教科あわせて、年間 10 時間以上実施し、昨年度よりも増加させる。(視聴覚部)	B	
③	【言語力の育成】11 月の読書週間や、最低週 3 日以上の図書室開館により、言語力の育成を図る。(教務部・視聴覚部)	A	B
④	【特別支援教育】特別支援教育の充実を図る。(特別支援教育委員会)	B	
⑤	【進路指導】生徒の適性に応じた進路指導を行う。(教務部)	A	
⑥	【道徳・人権教育】生徒が互いに違いを認め合い、共に生きる力を育てる(道徳人権委員会)	B	

### 結果と分析

- ①コース編成や教材について検討を重ねつつ、効果的な習熟度別少人数授業を実施することができた。また、必要に応じて T・T 体制を実施し、個に応じた学習指導を行うことができた。
- ②夏季休業中に ICT を活用した授業のための研修を行い、年間 10 時間以上の授業を実施することができた。
- ③11 月に読書週間を設け、朝読書に全校をあげて取り組むことができた。また、週 3 日の図書室開放を行った。
- ④特別支援教育コーディネーターを中心に、校内委員会を設置して組織的・計画的に取り組んだ。
- ⑤3 年生を対象に年 4 回の進路希望調査と、年 5 回の三者懇談会を実施し、生徒個々の適性に応じた進路指導を行った。
- ⑥1 年生の福祉体験学習、2 年生の平和学習では地域の多くの方々の協力を得て、人権教育に取り組むことができた。性教育については、各学年で発達にともなった取り組みを行うことができた。

\* A が 3 項目、B が 3 項目で同数であるが、教職員アンケートで②・⑥について課題が残ったので、学習指導の重点の目標達成状況は総合的に B とする。

### 次年度への改善点

- ② ICT 機器を活用した授業を増やす。
- ⑥道徳・人権教育について、年間計画および学校評価における自己評価の取り組み内容を見直す。また、区社会福祉協議会と連携して、3 年間を見通して系統立てて取り組む。
- ⑥道徳・人権教育について、年間を通しての実施に向けて全教員での取り組みを進める。また、学校評価における自己評価の取り組み内容を追加する。

### (3) 生徒指導の重点

目標 ・ 自主的・自立的な生活習慣や態度を養い、人間性豊かな生徒を育成する。

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

#### 取り組み内容 (指標)

①	【 <b>基本的生活習慣の確立</b> 】生徒は基本的な生活習慣と自律心が身についている。	B	A
②	【 <b>規範意識の育成</b> 】生徒は学校での活動を通じて、連帯感や所属感が育まれている	A	
③	【 <b>生活指導上の課題への対応</b> 】不登校生徒に対しては、家庭訪問や定期的な連絡を行うなど、家庭と連携しながら対応する。	A	
④	【 <b>生活指導上の課題への対応</b> 】学期に1回の教育相談週間を設け、生徒の理解に努めている。	A	

#### 結果と分析

- ①全教職員で指導内容を確認し合い、各学年で目標を掲げ、登下校時や集会・学級指導を通じて、日常的に指導することができた。
- ②、学級運営や生徒会活動、委員会活動において生徒が主体的に活動できるように指導し、連帯感・所属感を持たせるという目標は概ね達成できたように思われる。
- ③個々の生徒の実態を把握し、家庭との連絡を密にし、保護者と協力して生徒の指導にあたった。不登校生徒には、定期的に連絡を取り、情報交換のために校内研修会を設け、全教職員で共通理解を図った。
- ④学期に1回教育相談を実施し、毎学期の学期末懇談会等を通じて、生徒理解に努めた。

\* Aが3項目、Bが1項目でAが多いため、生徒指導の重点の目標達成状況は総合的にAとする。

#### 次年度への改善点

- ①生徒に基本的な生活習慣が身につくよう、継続して指導していく。
- ②自律的に行動する態度がより一層養われるよう、生徒主体の活動の充実に努める。
- ③不登校生徒に対して、家庭と連携しながら対応体制を組織し、減少・防止に取り組む。

#### (4) 保健管理・指導の重点

目標　・健康の管理と環境整備の徹底を図る。

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した  
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取り組み内容（指標）			
①	【健康な生活習慣】健康への関心を高めるような情報提供や啓発活動を毎月行う。 (健康教育部)	A	
②	【健康な生活習慣】自己の心身の発達と変化を理解し、生活に適応できる能力を養う。 (健康教育部)	B	A
③	【環境整備】学期ごとに大清掃、油引きを行い、校内美化に努める。 (健康教育部)	A	

#### 結果と分析

- ①定期健康診断等の機会を利用し、情報提供を行った。
- ②健康への関心を高めるよう、環境委員によるポスター作りを行った。
- ②薬物乱用防止教室を通して、薬物の正しい知識や身体に与える影響などの指導を行った。生徒の薬物乱用を未然に防止するために有用であった。
- ③生徒たちが、安心快適に学校生活が送れるよう努めた。

\* Aが2項目、Bが1項目でAが多いため、保健管理指導の重点の目標達成状況は総合的にAとする。

#### 次年度への改善点

- ①保健指導の充実のため、研究と修養に努める。
- ③机の整備を進める。
- ③環境委員の活動を通して、生徒たちの美化意識を高める。

## (5) 研修の重点

目標　・教員の資質の向上のために年6回以上研修を行う。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取り組み内容（指標）			
①	【研修計画】学校目標や状況に応じた校内研修の課題を設定し、それに基づく研修会を実施する。	B (教務部)	B
②	【授業研究】研究授業や授業研究を年4回以上行う。	A (教務部)	B
③	【各種研修】人権教育や特別支援教育について、全教職員に研修をすすめる。	B (道徳人権委員会・特別支援教育委員会)	

### 結果と分析

- ①教務関係・生活指導関係の研修を、ほぼ全教職員の参加で実施することができた。それぞれの成果については来年度に生かされるものが多い。
- ②初任者、2年次教員、3年次教員、5年次教員の研究授業、授業研究を年5回行うことができた。研究討議会でも活発な意見交換を行い、指導力の向上に取り組むことができた。
- ③研修会を実施し、日常の指導に生かすことができた。

\* Aが1項目、Bが2項目でBが多いため、研修の重点の目標達成状況は総合的にBとする。

### 次年度への改善点

- ①研修内容のさらなる充実を図る。
- ②授業研究については定着してきたので、相互授業参観の数を増やし、若手教員の育成に取り組みたい。
- ③性教育についての教材の開発・活用や、校内研修会の実施について研究を重ねる。